

柑橘10月の管理

伊豆農業研究センターの8月末の生態調査で、果実肥大はほぼ平年並みからやや大玉傾向で推移しています。表1を参考に果実肥大が遅れている園地では早急に摘果を実施してください。また、内容品質は酸が低い傾向となっております。今月は早生温州やポン酢橙などの収穫が始まります。病虫害や収穫の際のハサミ傷等で格外品の発生を助長させないように、最後まで丁寧な管理を行いましょ。

表1 柑橘生態(平成30年8月31日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	ヒュウガナツ			川野ナツダイダイ			太田ボンカン		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
30	46.7	42.3	110	73.8	62.9	117	45.2	41.7	108
平年	50.4	46	110	67	57.6	116	41.7	36.2	115
29	45.3	42.3	107	69.3	58.7	118	42.2	37	114
28	52.2	47.8	109	72	60.6	119	46.4	41.5	112
年度	不知火			はるみ			青島温州		
	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数	横径 mm	縦径 mm	果形 指数
30	58.6	57.7	102	60.6	56.6	107	53.1	42.9	124
平年	58.6	56.2	104	52.7	45.9	115	52.4	41.9	125
29	62.2	60.9	102	52.3	46.3	113	55.9	45.3	123
28	64.8	60.4	107	58.9	52.4	113	53.2	42.3	126

表2 果実品質(平成30年8月31日現在 伊豆農業研究センター調べ)

年度	青島温州		太田ボンカン		川野ナツダイダイ		日向夏		不知火		はるみ	
	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸
30	8	3.17	8.1	6.3	7.9	3.82	7.9	3.28	8.0	4.28	7.3	5.21
平年	7.6	3.79	8.2	6.68	8.2	4.12	8.3	4.82	8.0	4.85	7.7	5.36
29	8	4.07	8.7	7.28	8.1	4.47	8.2	5.59	8.5	5.14	8.3	5.55
28	7.5	3.66	8.0	7.14	7.7	4.74	8.3	5.59	7.6	5.1	7.4	5.92

☆摘果管理

摘果が不足している園が散見されます。外観不良果、傷果、小玉果、内裾なり果を中心に早急に摘果を実施してください。

また、樹上選果を収穫直前まで徹底してください。樹上選果を行うことで収穫や選果の労力の軽減に繋がります。

☆品質向上対策

枝つり

枝が下垂しやすい品種(不知火・清見・青島等)は枝つりを実施し、果実に光を当てることで、果実の高品質化、着色促進に努めてください。

浮き皮軽減対策

果皮強化のため早生温州では10月上旬に、普通・青島では10月中旬にセルパイン300倍を散布してください。例年、浮皮の発生が著しい園では10月中旬にフィガロン乳剤3,000倍を散布してください。(樹勢の弱い樹には散布を避けてください)

袋かけ

ニューサマー等の中晩柑類では品質向上、寒害・鳥害防止の為、袋かけを実施してください。なお、袋かけの前には必ずミカンハダニの防除を行いましょ。

☆病虫害防除

ミドリヒメヨコバイに吸汁された果実には、こはん症が発生します。こはん症がひどい場合は格外品となり受取りできなくなりますので、園地をよく観察し発生に注意してください。また、ハダニの被害が発生した場合も果実品質が大きく低下します。特に袋かけをする品種は袋かけ前に必ずハダニの防除を行うようにしましょ。収穫が近い品種では防除基準の収穫前日数に注意してください。基準に違反したものは受取りできません。

表3 10月の防除

時期	品種	対象病虫害	薬剤名	倍率	安全使用基準
10月上旬	早生温州	貯蔵病害	ベフラン液剤	2,000	収穫前日 3回使用可
10月中・下旬	かんきつ 全般	ミカンハダニ	ダニコングフロアブル	4,000	収穫前日 1回使用可
発生時		ミドリヒメヨコバイ	ロディー乳剤	2,000	収穫7日前 4回使用可

☆施肥

樹勢の回復、耐寒性の増強、翌年の開花結実促進のため秋肥を施用します。秋肥は早すぎたり、施肥量が多すぎたりすると着色の遅れに繋がります。逆に施肥時期が遅れると、気温の低下により吸収効率が低下します。適期に基準量を施用するようにしてください。

表4 10月の施肥

時期	品種	肥料名	反当量
10月上旬	甘夏・清見・不知火・日向夏 セミノール・はるみ・はるひ	FTE燐硝安加里S280	3

☆収穫・予措

収穫の際は、丁寧に2度切りを行い、高い所から落としたりして果実を傷つけないように注意してください。極早生・早生の予措は、果実をコンテナに7分程度入れ、風通しのよい日陰に2~3日置いてください。

☆夏秋梢の処理

秋梢は気温の低下する10月下旬頃には切り戻しても発生しにくくなります。必要に応じて夏秋梢の除去を行ってください。

- ・強い夏秋梢(直立の枝)
樹形の乱れを防ぐ為、春芽の基部より除去する間引き剪定を実施します。
来年裏年が予想される場合はかいよう病の出ている枝のみ切除してください。
- ・弱い夏秋梢(角度30度以下)
輪芽を残す切り返し剪定を実施します。
- ・幼木の夏秋梢
樹冠拡大、早期結実の為、夏秋梢を残します。
- ・不知火・はるみの夏秋梢
充実した夏秋梢は来年の結果母枝になるので残します。混み合った短い枝やかいよう病の罹病枝は間引いてください。